

こども環境学会・2017年大会(北海道) 大会概要報告

公益社団法人こども環境学会
代表理事 仙田満

■大会テーマ：遊びで育つこどもたち

■日程：平成29年度5月26日(金)～28日(日)

■会場：北海道文教大学(恵庭市黄金中央5丁目)

■主催：公益社団法人 こども環境学会

■後援：

北海道、札幌市、恵庭市、安平町、東川町、下川町、
東海大学札幌キャンパス、北海道文教大学、
内閣府、国土交通省、文部科学省、厚生労働省、環
境省

日本学術会議、科学技術振興機構、日本ユニセフ
協会、日本ユネスコ協会連盟

日本建築学会、日本都市計画学会、日本造園学会、
日本環境教育学会、日本発達心理学会、日本保育
学会、日本体育学会、日本子ども社会学会、人間・
環境学会、日本安全教育学会、日本感性工学会

日本小児保健協会、日本建築家協会、全国建設室
内工事業協会、都市計画コンサルタント協会、日
本公園施設業協会、日本公園緑地協会、公園財団、
日本造園建設業協会、都市緑化機構

IPA日本支部、チャイルドライン支援センター、セ
ーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、日本子どもNPO
センター、聖徳大学(順不同)

■参加費等：

正会員、団体会員：5,000円

学生会員3,000円

会員外(北海道民以外)：6,000円

※当日参加は各々500円増し

北海道民：無料

子ども・障害者：無料

■参加人数

大会参加者：453名

会員132名、会員外18名、北海道民256名

招待4名、報道3名、

北海道文教大学関係者3名学生スタッフ17名

講師13名(会員除く)、こども登壇者7名

懇親会参加者：105名

エクスカージョン参加者：75名

■プログラム

【5月26日(金)】

エクスカージョン

Aコース

担当 猪口信幸

北清の森&恵庭幼稚園→えこりん村→茂漁川→恵
み野

Bコース

担当 宮武大和

札幌トモエ幼稚園→石山緑地→子どもの体験活動
の場 Co ミドリ

【5月27日(土)】

開会式・挨拶など

基調講演

主旨説明：小澤紀美子(東京学芸大学名誉教授)

「奪われし未来」にしない～こどもの健康からみ
た環境の重要性～：岸 玲子(北海道大学環境健
康科学研究教育センター 特別招へい教授)

遊びで育つこどもたち～僕らの遊び場プロジェク
ト～：井内 聖(学校法人リズム学園学園長、はや
きた子ども園園長)

首長シンポジウム

こどもを元気に！遊びと自然体験に取り組む
プロローグ

中谷通恵(子どもとメディア北海道事務局長)
シンポジウム

司会：中島興世(こども環境学会副会長、前恵庭
市長)

パネリスト

瀧 孝(安平町長)

松岡市郎(東川町長)

谷 一之(下川町長)

コーディネーター

仙田満(こども環境学会代表理事、東京工業大)

学名誉教授)

ポスターセッション

学会賞表彰・受賞者講演・懇親会

【5月28日(日)】

ポスターセッション

分科会

分科会A：自然と体験活動

話題提供

愛甲哲也(北海道大学大学院農学研究院准教授)

金由貴子(公益財団法人札幌市公園緑化協会職員)

井内 聖(学校法人リズム学園学園長、はやきた子ども園園長)

コーディネーター：椎野亜紀夫(札幌市立大学准教授)

分科会B：困難を抱えるこどもと外遊び

話題提供

荻原弘幸(公益財団法人そらぷちキッズキャンプ看護師)

小島愛子(一般社団法人ホースコミュニティ理学療法士)

小柴満美子(山口大学准教授・埼玉医科大学医学部小児科学客員准教授)

コメンテーター

山内秀雄(埼玉医科大学医学部小児科学教授)

コーディネーター

広田まゆみ(北海道議会議員)

小澤紀美子(東京学芸大学名誉教授)

分科会C：共に遊び共に育つ

話題提供

林 睦子(岩見沢プレーパーク研究会)

勝呂由紀(『プレイセンターHug!』実行委員会代表)

宮武大和(札幌トモエ幼稚園主任教諭)

コーディネーター

平野義文(岩見沢市議会議員)

分科会D：環境としての「年齢」

～異年齢、多世代、多様性を生きるこども～

話題提供

小林真弓(ねっこぼっこのいえ・代表)

吉田行男(発寒ひかり保育園園長)

川田 学(北海道大学大学院教育研究院准教授)

コーディネーター

小田進一(北海道文教大学教授・附属幼稚園園長)

総括セッション／閉会式

【5月29日(月)】

エクスカージョン

Cコース

担当 小澤紀美子

モエレ沼公園→創成川公園

【大会総括】

このたびの大会では全国から多くの方にご参加いただき有難うございました。これまで大会は4月下旬のゴールデンウィーク前の開催でしたが北海道の気候に配慮して5月中旬に開催させていただき、また運営も不慣れななか不安を抱えて準備を進めて参りました。参加者はじめ、協賛や後援をいただいた多くの団体や企業、ご協力いただいた多くの方のおかげで、なんとか大会の形にできましたことを心より感謝いたします。初めての経験でもあり、こども環境研究会北海道を立ち上げて仲間の輪を広げ、2016年の安平町でのこども環境学セミナーで勢いとチームワークを高めてのぞんだ大会運営でした。北海道文教大学様には会場を提供いただいたばかりでなく、教職員・学生の皆様に細やかなご配慮をいただきました。恵庭市にも大会運営にご協力いただきました。誌面を借りてお礼を申し上げます。

大会テーマは「遊びで育つこどもたち」と設定し、遊びのなかで育まれる生きる力を考えるものとししました。自然が豊かで遊びの場所が多いと思われる北海道でも外遊びが著しく減少しこどもの体力も低迷していることに、実行委員の多くが危機感を持っていました。全国から集う方々、そして地元で活動される多くの方々と、こども環境の

あり方の根っこを踏まえた議論ができる場にしたいと考えました。基調講演や首長シンポジウム、そして4つの分科会を通して、熱い議論と交流ができたことを嬉しく思います。多くの市民、道民が参加する大会にしたいとの思いが大会委員長はじめ実行委員会にありました。そして大会には、会員のみならず北海道の子どもに関するさまざまな活動団体の方々や幼稚園や保育所の方々が多数来場され、分科会でも意義深い活動報告がなされたことが印象的でした。子ども環境のために、実践者と研究者、学会と市民が手を携えて進むことの大切さが感じられる大会になったのではないかと思います。

他にもポスター発表ではさまざまな議論を深めることができました。北海道民向けに設けた発表を伴わないポスターDの区分にも、力作のポスターが並びました。子どもに関する多種多様な研究や活動をする方々が交流できる良い場になりました。当初の予想以上に多くの方が来場され混雑しましたが、会場運営や託児などの学生スタッフの素晴らしい活躍にも支えられ大きな混乱なく大会を進行できました。

春の北海道で、さまざまな出会いと交流がありました。そのどれもが貴重なものだと感じています。そこからまた新たな芽が育ち、子どもの健やかな成育の力となっていけるようにと願っています。

【大会提言】

子ども環境学会2017年大会（北海道）は「遊びで育つ子どもたち」をテーマに行われました。子ども環境学会の会員に加えて、多くの道民・市民や行政の方々の参加を得てさまざまな議論が交わされました。研究者、実践者からの先進的な報告、多様な市民の活動や声も重ね合わせていく中で、遊びを含むさまざまな体験の場の大切さが共有されました。基調講演、首長シンポジウム、分科会で議論されたことを踏まえて、子どもが生き生きと育つことの出来る子ども環境のあり方について、以下の4つの提言がまとまりました。これらの提言も踏まえ、より良い子ども環境が広がることを

願います。 大会実行委員長 小田進一

① 全ての子どもが生き生きと成長することが出来る健やかな環境を守り未来につなげよう。

子どもを取り巻く環境は、交通事故や犯罪等に留まらず電子ゲームの普及や様々な化学物質による汚染にいたるまで、かつてない程の変化と危険に晒されています。また、さまざま困難を抱える子どもや生きづらさを感じる子どもへの配慮も大切なものとなっています。全ての子どもが生き生きと暮らし健やかに成長出来る環境をつくり守りましょう。

② 子どもが育つ多様な場とネットワークを大切にし子どもも大人も共に成長する環境をつくろう。

子どもの世界が様々に分断されている状況があります。異年齢の遊びや多世代の交流、学びあひながら子育てをするプレイセンター、地域を巻き込む教育など、多様な場づくりは人をつなぎ育てます。そこでは、子どもと大人が共に育ち体験を分かち合うことが出来ます。多様な場とつながりを生かした新しい「共同性」のあり方を大切にしましょう。

③ 遊び場づくりを子ども参画のテーマにとりあげ地域力を生かして子ども参画を進めよう。

子どもたちが考えた遊び場を地域の大人が応援し実現する、総合的学習の時間に公園や園庭づくりを子どもが考えるなど「僕らの遊び場プロジェクト」に見られる子ども参画には、子どもと地域を結び主体的な学びを進める大きな力があります。遊び環境の改善と子ども参画を本格的に進め、子どもが生き生きと輝くまちをつくりましょう。

④ 体験の場としての遊びの環境づくりを市民・教育機関・行政機関等が協力して実現していこう。

自然の中での遊びや、子どもが地域と関りながら生まれる遊びには、子どもの成長に不可欠な体験の場としての大きな意義があります。子どもが育つ環境づくりにまちづくりとしての高い優先順位を与えることが大切だと考えます。実践者と研究者、さらに市民と行政機関が目標を共有し、より良い子ども環境を実現するために前進しましょう。

決算案

【収入の部】 単位:千円)

2017年9月5日

項目	予算額	決算	概要内訳
参加費	930000	751500	会員：事前5,000円×103名、当日5,500円×14名 学生：事前3,000円×11名、当日3,500円×4名 会員外（北海道民以外）： 事前6,000円×9名、当日6,500円×9名
エクスカージョン参加費	50,000	198,000	5,000円×27名、1,500円×42名
補助金	0	0	
展示・広告収入	540,000	660,000	広告30,000円×22口
その他の協賛金	400,000	301,982	プログラム協賛52000円 出店協賛46482円 その他の協賛100000円×2、3500円
懇親会費	600,000	525,000	事前5000円×94名、当日5500円×10名、招待1
その他	39,000	1,900	保育100円×19名
合計	2,559,000	2,438,382	

【支出の部】 単位:千円)

項目	予算額	決算	概要内訳
会場費	0		
エクスカージョン	30,000	162,453	保険2,450円（全コース分） 解説者謝金11,137円（B、Cコース） Aコースバス代43,200円、入園料+ガイド料40,900円、食事代46,190円 Bコース拡声器6,560円 施設使用料10,000円、消耗品他2,016円
懇親会費	600,000	526,460	文教大食堂400,000円、追加飲み物代126,460円
講師謝金	200,000	66,251	基調講演33,411円×1名 分科会5,568円×5名、5,000円×1団体
旅費	50,000	13,540	講師交通費分科会2名
印刷製本代	1,200,000	1,178,330	大会号印刷費992,500円、送料174,700円 プログラム発送用封筒11,130円
広報活動費	150,000	165,286	ポスター11560円、チラシ69194円 送料54157円、横断幕30375円
事務局	150,000	135,710	事務局3名交通費・宿泊費
託児	30,000	1,035	託児保険
学生アルバイト	144,000	96,410	日当3110円×31名
その他	5,000	5,940	振り込み手数料
消耗品		76,167	プリンターインク49,248円 名札ケースなど22,442円 実行委員会消耗品コピー用紙など4,477円
雑費		10,800	優秀ポスター賞用フォトフレーム
合計	2,559,000	2,438,382	

収支

0